

急変時の介護医学

急変を見抜くのは、利用者の生活を創っている介護職の力量にかかっています。また、病状の安定のほとんどは、医師・看護師以上に介護職が握っています。さらに、ケアの質を上げると診断が早まります。本セミナーでは、病状管理の方程式をマスターし、急変時の見抜き方と考え方を学びます。

岡山
会場

2019年

日時：2月2日(土) 10:30~16:00

会場：オルガホール
(4階会議室「マウント」)

(岡山県岡山市北区奉還町1-7-7)

☆JR「岡山」駅西口から、北へ徒歩7分

広島
会場

2019年

日時：2月3日(日) 10:30~16:00

会場：広島県健康福祉センター
(小会議室)

(広島県広島市南区皆実町1-6-29)

☆路面電車5号線(比治山下経由広島港行)
「南区役所前」下車、徒歩3分

◆◆◆ 講師：清藤大輔 ◆◆◆

医師/ういずクリニック新横浜・院長

1994年、熊本大学医学部卒。仙台市での在宅ホスピス勤務医を経て、2003年より11年間、老健施設の施設医を務める。2014年より介護老人保健施設・志木瑞穂の里副施設長、2015年より施設長。2018年3月同施設退任。



へ
プ
ロ
グ
ラ
ム

- 10:30 ◎急変時とは
▼ 異常の早期発見と早期対応/慢性疾患の急性増悪/急変のリスク因子/事故防止の3つのレベル/急変時の介護ならではの役割/急変時の医師・看護師への報告の仕方
- 11:30
- 11:45 ◎急変時のサインと緊急性の高い症状
▼ 急な体調変化/急なADL低下/突然の激しい痛み/2回以上続く嘔吐/3食以上食べない/便の色の異常/バイタルサインのパニック値/時間単位での症状の変化/意識レベルの低下/体の一部の異常な動き/薬が原因の新規症状/けがと骨折
- 12:45 (昼食)
- 13:45 ◎急変時の症状別対応
▼ 高熱(38度以上)/誤嚥・窒息/呼吸困難/意識障害とせん妄/けいれん/てんかん/意識消失/激しい頭痛・胸痛・腹痛/吐血・下血/骨折/火傷/鼻血/低血糖発作
- 14:45
- 15:00 ◎2つ以上の症状の危険な組み合わせ
▼ ①意識レベルの低下+呼吸器症状、むくみ・息切れ、体の動きの異常、冷や汗、血圧低下
②頭痛+嘔吐、38度以上の発熱+脈90以上、入浴後+めまい、多量の排便+意識障害
- 16:00

*受講料はお送りしません。満員でお断りする場合のみ一週間以内にご連絡さし上げます。【受講料：7,000円】

*受講料は当日会場で承ります。

主
催

なるほどケア塾 お問い合わせ
〒189-0011 ☎042-306-3771
東京都東村山市恩多町 3-39-13-101 ㈱円窓社内

お申し込みはこちらへ Fax

Fax : 042-306-3772

<参加人数>

<参加者名> *施設の場合は施設名もご記入ください。	2/2(土)岡山 ()名	2/3(日)広島 ()名
<住所>〒 (自宅・職場)		
<TEL>	<FAX>	